

初期症状に注意！ 白血病とその治療

「血液のガン」と呼ばれている白血病。小児から高齢者まで年齢に関係なく発病します。現在では治療法が確立してきました。今回は白血病についてご紹介いたします。

『血液(血球)のガン』…白血病とは

(1) 白血病とは

血液の血球(赤血球、白血球、血小板、リンパ球など)は、骨の中心部の骨髄(こつずい)にある造血幹細胞(ぞうけつかんさいぼう・血球に成長する基となる細胞)が分裂、増殖、そして分化して作られています。白血病は造血幹細胞が血球に変わっていく過程で、何らかの原因により異常な血液細胞(ガン細胞)へと変わって増殖する病気です。白血病の原因は詳細には解明されていませんが、ウィルスや大量の放射能、発ガン性を持つ物質や薬物、タバコなどにより遺伝子に傷が付き、細胞がガン化することがわかっています。

(2) 白血病のタイプと症状

白血病は、病気の進行速度から「急性」と「慢性」、ガン化する細胞の種類によって「骨髄性」と「リンパ性」に分けられ、主に右表のような4つのタイプに分類されます。「慢性」の症状は進行がゆるやかなのですが、急に症状が悪化することがあるので油断はできません。右表の症状は風邪の症状などに似ているため軽く考えがちですが、症状が続く場合には、万一のため医師の診察を受けましょう。

タイプ	主な症状
急性骨髄性白血病	倦怠感、貧血、発熱、動悸・息切れ、出血しやすくなる(鼻血、歯茎からの出血)、打撲などがなくとも内出血がある
急性リンパ性白血病	倦怠感、微熱、体重減少
慢性骨髄性白血病	倦怠感、微熱、体重減少、リンパ節が腫れる

現在の白血病治療法

(1) 白血病の診断法

問診や観察を行い、血液検査で白血球の種類と量を調べます。特に微生物の感染が見られず白血球の量が増加している場合は白血病が疑われます。より詳細な検査が必要な場合は骨盤の骨髄から髄液を採取し、白血病細胞の有無・量を調べて、白血病のタイプの診断と治療法の検討を行います。



(2) 白血病の治療法

① 急性白血病

骨髄性かリンパ性かの違いにより使用される薬剤は異なりますが、最初に右上表『寛解(かんかい)導入療法』『寛解後療法』の二段階で抗ガン剤による治療を行います。

もし、この方法により治療の効果が無い場合、再発または再発する可能性が高い場合には正常な造血幹細胞を患者に移植する『造血幹細胞移植』(詳細右下表)が行われます。ただし、『臍帯血(さいたいけつ)移植』以外では患者とドナーとで白血球のタイプ(HLA型・組織適合性抗原)が適合しないと成功しにくいという問題があります。

② 慢性白血病

慢性白血病は、血液中に白血病細胞が多くあっても症状が安定している時は通常の生活が可能です。特にリンパ性では、積極的な治療は開始せず経過を観察し、必要が生じてから抗ガン剤療法などの治療を行うことがあります。一方、骨髄性の場合は、急に症状が悪化すると治療困難になることが多いので、すみやかに治療を開始します。現在では「イマチニブ」という骨髄性のガン細胞へ効果的に作用する抗ガン剤が開発され、多く使用されています(一部の急性リンパ性白血病患者にも健康保険適用)。もし、これを使用しても効果が無い場合には、他の薬剤の使用や急性白血病と同様に造血幹細胞移植が行われます。

■ 主な急性白血病の治療法の概要

(かんかい) 寛解導入療法	抗ガン剤を大量に投与し、白血病細胞を減少させる。骨髄で正常な造血幹細胞が生まれるような状態(寛解状態)に回復させる。
寛解後療法	寛解状態に達した後、さらに1~2年抗ガン剤の投与を続けて、白血病細胞を根絶する。
造血幹細胞移植	抗ガン剤を大量に投与した上で、放射線を全身に照射して体内の白血病細胞と造血幹細胞をすべて死滅させる(前処置)。その後、正常な造血幹細胞を移植する。

■ 主な造血幹細胞移植の方法

骨髄移植	ドナー(提供者)から骨髄液を採取し、患者に注射する。
(さいたいけつ) 臍帯血移植	出産時に採取した臍帯(へその緒)に含まれる造血幹細胞を採取して、患者に注射する。凍結保存しておくことができる。

《皆様の安心と安全のプレイントラスト(専門顧問グループ)》

株式会社ヤシロエージェンシーリミテッド 担当：八城一浩

〒107-0052 東京都港区赤坂3-1-2 TEL:03-3582-4511